



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

友達になろう

BE A FRIEND



佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日 (12:30~13:30)

例会場 ホテル神宮寺 TEL 0985-73-0015

事務局 〒 880-02 佐土原町大字下田島9883番地1
TEL 0985-73-0015

1995. 6. 23 (金) 第368回例会

1. 点 鐘
2. ロータリーソング「我等の生業」
3. 食 事
4. 会長の時間
5. 幹事報告
6. 各委員会報告
7. 新会員卓話
8. 点 鐘

第367回例会記録

(1995. 6. 16)

会長の時間 池田仁志

皆さん今日は、本日は第367回例会です。初めに、本日ビジターとしてご出席いただきました西都RCの長友正三幹事さんが、同クラブの5月30日付けの週報をご持参くださいましたので、ご披露申し上げます。

その中に、佐土原クラブについての記事がございます。去る5月26日の当クラブ例会にメークアップされました、西都クラブ宇治野 稔氏のご投稿です。その要旨をご紹介しますことができます。見出しは“ガンバレ佐土原クラブ”。「1年半ぶりぐらいに佐土原RCでメークアップをさせてもらったが、素晴らしく明るいクラブに変わっていた。以前は16~17名の会員で、例会の出席者が佐土原クラブ会員は7~8名、ビジターの方が6~7名という時すらあったと思う。

だが今回出席してみても驚いたことには、当日30人目(註 林 厚雄会員)の入会セレモ

ニーが行われていたし、例会出席者も20数名あり、明るさと活気を感じた。

「勢いとはすごいですね」と、同クラブのある会員は語られた。私は佐土原RCの発展が大変嬉しく、拍手を贈りながら帰途に着いた。」

西都RCの皆様には、当クラブが会員数の減少に悩んでいたときから絶えず多くのビジターを出席させていただき、私たちを励ましてくださいました。その上、この度会員数が30名に達したことを、わが事のように喜んでいただき、貴クラブ週報にまで取り上げてくださりまして、本当にありがとうございます。(出席会員より感謝の大拍手)

先月の19日~20日埼玉県で開催されました、「日本ふるさと塾」の会の中にある「花咲か爺の集い」という町おこしグループの研究集会に出席しました。北は北海道から南は沖縄まで、全国から165名が参加し、放射線状に座席が作られた会場の中央に設置してある演壇で、各市町村からいろいろな町おこしに関する事例の発表が行われました。

その中で、印象に残った事例をお話してみたいと思います。それは、山口県の青年商工会議所理事長が話されたことなのです。平成4年2月、青年商工会議所会員の研修会で萩原先生にご講演をお願いした折り、出席者は初めてその地域にハンセン病の権威者光田健輔先生がおられることを教えられました。

光田先生は森 陽外の父と同郷の影響で、医学を志し、東大医学部で病理学を専攻後、東京市立病院に勤務しました。そこで初めてハンセ

事務局 ☎ 880-03 宮崎県宮崎郡佐土原町大字西上那珂5632 (有) 藤堂産業内 ☎ 0985-74-2575

会長 池田仁志・副会長 児玉武文・幹事 藤堂孝一・会計 大野高志・会報責任者 垂水敏雄

ン病患者と出会いました。ハンセン病は当時癩病と言われ、わが国では最も忌み嫌われた病気でした。光田先生は何とかハンセン病患者に光明を与えなければいけないと考え、この時、自分の一生をハンセン病の治癒に捧げようとして決意されたのです。昭和5年、岡山県の瀬戸内に国立隔離療養所「長島愛生園」が設置されると、初代園長として赴任されました。

青年商工会議所の会員達は、町おこしの一環として、このようにすばらしい光田先生を世の中に紹介しようと思い、早速「愛生園」を訪ねました。その時に患者自治会の人達から、次のような意見が述べられたのでした。

「光田先生は立派な方です。しかし、先生は私達を強制的にここに収容した方でもあります。

そして私たちは収容された側であります。何事にも「光と影」があります。皆さんが光田先生の業績を称えれば称えるほど、ひっそりと暮らしている私達患者の、人に知られたいくない醜い部分がさらけ出されることになるのです。

光が強くなればなるほど、影も強くなるのです。」と。

人の業績を称えることは、反面このようなことも生ずるという事実を教えられました。と理事長は述べられておられました。

私どもも「町づくりは人づくり」と聞かされてきましたが、配慮すべき難しい面もあることをつくづく知らされた次第です。

幹事報告 藤堂孝一

1. 例会変更通知
- *延岡RC 6月26日 18:30
ガーデンベルズ延岡
 - *宮崎南RC 6月26日 18:30
ホテル・プラザ
 - *宮崎北RC 6月28日 18:00
18:30～ 懇親会
ホテル・フェニックス
 - *宮崎中央RC 6月29日 18:30
19:00～ 懇親会
ホテル神田橋
2. 次年度宮崎市郡6RC会員名簿作成用顔写真を新会員の方は来週例会に持参ください。

出席報告 委員長 神宮寺 利夫

会 員 数	30名
欠 席 者 数	4名
HC出席者数	26名
出 席 率	86.7%
欠 席 者 名	土屋・徳丸・中武・福田

本日のビジター

西都RC 尾崎公男君
長友正三君

会員卓話 6/2 山 脇 忍

1976年にアフリカのスーザンとザイルの中間を流れているエボラ川流域にエボラ出血熱が発生し、400名の死者が出ました。

幸いエボラだけに留まって、その後流行はしませんでした。実は、エボラと同じようなウイルス性出血熱が、10年前の1967年にナイジェリアのラッサ地方で発生し、最初の患者と関わった医師と看護婦が死亡しています。わが国ではエボラ出血熱は指定伝染病と言って、法定伝染病と同じ取扱いになっています。

1967年、西ドイツでウイルス性出血熱が発生し、30名罹患して16名亡くなっております。患者は少なくとも致命率が高いということになって問題になっています。

ウイルス性出血熱の症状は、頭痛、発熱、筋肉痛が出ています。最初は風邪症状、出血傾向が見られ、それから激しい出血があります。いろいろの所から出血し、ついには死に至るのであります。

また、何から移るかといいますと、精液、血液、唾液からです。この点エイズに似ています。人から人にそう簡単には移らないということですが、非常に変異が強いウイルスです。今度ザイルで発生したウイルスも、従来のもとは少し変わっているようです。

エボラ出血熱のウイルスは5種類位あると言われます。変異が強いということは、それに対する抗体を与えても、ウイルスが直ぐに変わるので効かない、即ちワクチンができ難いということです。(続く)